

東京都北区 新聞大好きプロジェクト 「比べて読もう新聞コンクール」

# 大切にしたい、「自分事」にする機会

西ヶ原小学校  
第六学年  
児童

テーマ

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

僕はあまり水泳が得意でないので、プールの授業のある日は雨が、気温が高くなつて中止にならなかんな、と思つてしまつこともある。そんな時、プールの授業がなくなるかも知れぬ、という記事を見た。別の日には、4月に受けた学力テストとアンケートの結果が公表され、小学生と中学生で理科に対する気持ちの違があるという記事があった。

どちらも僕が学校で体験している事の記事なので、興味と親しみがわいたから。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かつたことを書いてください。

①について近頃、体育の堂習指導要領で必修となつてゐる水泳の授業で実技を取りやめて座学にする小学校が増えてる。熱中症のリスクや、プールの老朽化・維持費の高騰、生徒が水着を散遠する傾向など様々な理由がある。けれど、海や川で溺れた時に命を守るためにも水泳の実技授業は大切であり、座学だけでは限界がある。

②について全国学力テストでは、中学生は理科の化学反応式や熱量などを問うる問題に苦戦し、理科が好きとした割合が小学生より顕著に低かた。これは、小学校では生物の觀察などを楽しんで学ぶ授業が多いが、中学校は抽象的な概念や目に見えない現象について理解せられる学習が増えたことによるものが原因と考えられる。

①と②を比べて分かつたこと、自分で調べてみたいこと。①では、実技がなくなることににより事故にあつたときの技術思考力、判断力が育たない。②では実験なしで法則や物質の成り立ちなどを抽象的(かさ)と理解しきれはならないので、理科を好きになれないというマイナスが書かれていた。どうしてマイナスになってしまうのか。プラスに変わることはしないのだろうか、考えてみようと思つた。

III テーマについて、自分の考え方や他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

僕は水泳が苦手で出来ればやりたくないと思うけど、実際にプールに入ること意外樂しかったりする。学校では着衣泳の授業もあり、これを受けたことで溺れたときにするべきことを教などを頭よりま体で覚えることが出来た。という体験をした後に教科書を見る、なぜか面白く感じる。どうして、自分が体験する前後でその事に対する気持ちが違うのだろうか。それは体験したことから「自分事」になつたからだと思つ。自分の事だから興味や関心があるという。プラスによる時間ではないだろうか。

「自分事」にすると、自分の世界が広がつてくる。僕の学校には「理科」という素晴らしい授業があり、地域の名人が先生となり色々な事を体験しながら教えてもらえる機会がある。そこで学んだ事の関心はぐんと高くなる。「自分事」になったの。これが嬉しい無限大のマイナスが好き、関心があるという。プラスによる時間ではないだろうか。学校生活は色々な体験が宝箱であるけれど、それが僕が選んだ新聞記事のように少なくなつてしまつるのは、「自分事」にする機会を増やすしかない。自分の世界を広げるため、そんな機会を大切にしたいと思う。